

しょう):旧陸軍の大砲製造所。旧荒井村と高砂町にまたがる広大な敷地を強制収容し建設。現在の神戸製鋼や三菱重工などの敷地

① 新幹線撮影スポットとマラソンコース

加古川右岸(西側)堤防から橋梁を望む。防音壁がなく、直線なので新幹線の全景を見通すことが出来る。河川敷には陸連公認のマラソンコース折返し点。



⑦ 三叉路

小松原の道路には迷路状の三叉路(さんさろ:T字路)が残っている。(右は城郭集落の想定図)



⑬ 鉄製の火の見櫓(やぐら)



今では見かけなくなった火の見櫓。現在は半鐘の代わりに防災無線のスピーカーが付いている。昭和27年に建てられた。

② 固寧倉(こねいそう:郷倉)

江戸時代後期に姫路藩が整備した非常用食料備蓄倉庫。原型は唐から伝来した社倉の制度である。



江戸時代諸藩でこれに似た制度が作られた。

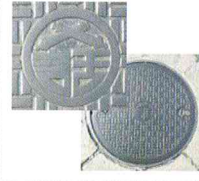
⑧ 小松原城址の碑

平成10年建立で凝灰岩(青の竜山石※1)。

大福寺、三社大神社が中世の小松原城であったとの説がある。



⑭ 大阪造兵廠(※2)のマンホール



大阪造兵廠の印(砲身をデザイン)がデザインされたマンホールの蓋。荒井駅東道路上と地下道南側にある。

③ どろまの地蔵

南北朝～室町期、江戸時代初期にかけての五輪塔や板碑型石塔が祀られている。「牛飼地蔵」や「子供地蔵」とも呼ばれた。



⑨ 小松原三社大神社と灯笼・狛犬(こまいぬ)

三社大神社は、品陀和気命(八幡さん)・天照皇大神(お伊勢さん)・天児屋根命(春日さん)を祀る。灯笼は宝暦11年(1761)のもので、笠の上が剣型になっている。狛犬の台座には、享和3年(1803)の銘があり、阿吽(あうん)一對の石造りである。



⑮ 子安地蔵

享保12年(1727)の銘。花崗岩。旧街道沿いにあり、お堂前には⑯の道標がある。子安地蔵と道標の間の路地が街道筋であった。



④ 西の地蔵さん

地蔵菩薩が南向きで祀られている。地蔵盆には数珠繰りが行われる。



⑩ 大福寺・十三層塔と地蔵群

南北朝時代前期(14世紀中頃)に造られた層塔であるが、下から7層目を除く12層の笠部分のみ残されている。花崗岩。市指定文化財。



⑯ 道標

正面に「南無阿弥陀仏」と刻まれており、旅の途中不慮の死を遂げた人のために村人か縁者が立てたものとも考えられている。安永6年(1777)銘が残る。



⑤ 御所殿神社(ごしょでんじんじや)と池

祭神は印南別嬢命(いなみのわけいらつめ):播磨国風土記に景行天皇の皇后として登場する女性。日本武尊の母と言われ、日岡御陵に埋葬されていると伝えられている。2月に1年の運勢を占う「鳴動式」が行われる。



⑪ 旧小松原村基標

三社大神社鳥居の横にある。測量等で基準となる石製の標柱である。



⑰ 観音さん(厄除(やくよけ)観音)



昭和9年9月9日、土中より発掘された。室町時代後期の如来立像で凝灰岩(竜山石※1)。

⑥ 堀跡

竜山石(※1)を積み上げた石垣で造られた溝である。中世小松原城の堀であったと言われている。



⑫ 蓮池の地蔵

水路の中から見つかった地蔵さん。室町時代後期のもので花崗岩。



⑱ お地蔵さん

昭和30年代初期、荒井小学校に埋れていたのを近所の人に取り上げ、お堂を建てて祀った。

室町時代の後期のもので凝灰岩(竜山石※1)。



★ 旧荒井村水道・消火栓

旧荒井村の千鳥マークの水道・消火栓用蓋。市民病院の北と東の道路上及び日之出町にもある。西部版にも記載。

